

Bulletin 196

2006年8月号

平成3年4月16日第三種郵便物許可 平成18年8月15日発行(隔月15日発行) 第20巻第3号 通巻196号

第9代会長の就任に際して

仙田満 環境デザイン研究所 2
 JIA戦略チャート [巻末差込み]

支部長新任の抱負

伊平則夫 久米設計 4



私が見たカンボジアの原風景 梓設計設計本部国際部 古池 廣行 6

リスボンの経験から保存問題委員の活動へ 倉澤智建築事務所 倉澤 智 8

建築相談から見る木造住宅の現状 藤田建築設計室 藤田 譲 9

ライト建築アーカイブズ日本 森 晃一氏 10

北大路魯山人先生にお仕えて 竹内裕二建築設計事務所 竹内 裕二 12

メンテナンス部会部会長に就任して 宮城設計一級建築士事務所 宮城 秋治 13

デザイン部会 新人賞受賞者講演 堀川秀夫造形建築研究所 堀川 秀夫 14

JIA神奈川 大学卒業設計コンクール 神奈川建築事務所 鈴木 與 15

JIA千葉 第18回千葉県建築学生賞 意匠院 寺川 典秀 16

JIA新潟地域会 前川國男新潟学講座 上山寛アトリエ 上山 寛 17

城下町新潟県村上市の文化・地域活性化運動と 町並み保存再生運動 都市・建築設計事務所 植田 清史 18

交流 新規加入企業紹介 新しい価値基準の創造をめざして 甲木 豊秀 20

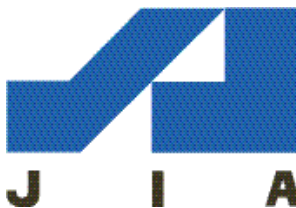
設計者に応える製品づくり 新田 格三 20

Think & Ideaの実践 伊藤 敏郎 21

アーキテクト・ガーデン2006建築祭 構想建築設計研究所 上浪 寛 21

イベントセミナー情報 22

編集後記 23



社団法人 日本建築家協会
 The Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
 Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294



第9代会長の就任に際して

創造性を喚起する社会システムに転換し、設計大国を目指す



日本建築家協会会長
仙田 満

5月31日の総会において私は日本建築家協会第9代会長として選任された。2年前に副会長に就任し、小倉前会長を補佐し、JIAの運営に関わってきたが、この2年間でさまざまなことがあった。設計入札の問題、財政危機の問題、耐震偽装の問題、UIA2011年決定など、大きな課題をこの2年間で明確に与えられた。しかしながら、これらの問題は長年のJIAの課題でもある。私はJIAが取り組むべき課題を戦略的に整理することを試みた(差込みのチャート参照)。私たちは多くの問題を同時並行的に解決するようチャレンジしなければならない。同時並行的に行うことによって私たちの目的をより早く達成できるのではないかと思う。本部、支部、地域会の連動においてこの戦略チャートを補完し、会員の一人一人が、全体と会員が連携している課題との関係をはかっていただきたい。大きくはJIAの再生と建築社会システムの変革という2つのテーマのもと、JIA再生では本部、支部、地域会の活動活性化、財政再建が、建築社会システムの変革では設計者選定システムの変革、設計者資格の確立、設計業務環境の改善が当面の課題だ。

設計入札をやめ、創造性を喚起する社会システムを

私は全身全霊をかけて設計入札という悪い社会システムを止めるよう努力する。設計入札は建築家を談合という犯罪か、ダンピングという自己否定に貶める世界にも類のないシステムで、私は日本の創造力を喚起しない社会システムの代表例と考えている。私は日本建築学会でも副会長、会長時代、設計入札問題など業界の問題で、学術団体でやることではないと言われ続けてきたが、国民のためにどのような社会システムが良いかを示すのは学会の重要な仕事だと反論してきた。JIA、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、建築業協会(BCS)とあわせ5会で「設計者の選定の改善の提言」を2003年につくることができた。それが2005年の工事の品質法(工事の品質確保の促進等に関する法律)においても、設計およびコンサルタントの選定という項目で有効な働きをしたと思う。今後もそのガイドラインについてもJIAとして積極的に発言をしていきたい。しかし設計入札は役所にとっては一番簡単な方法だ。なかなか改善す

ることが難しい。プロポーザル1つやる方法がわからないということをよく言われる。JIAが推奨するQBSについてもそのノウハウを広めるための支援組織をつくっていくことが建築設計界にとって重要だ。また知事や市長選挙のみに設計者選定について首長候補に設計入札をしないというマニフェストを表明してもらったらどうかということを前の港区長の原田敬美さんからアイデアをいただいた。JIAも各地域で地方選挙のたびに候補者に投げかける必要がある。そうすれば4年で日本の設計者選定のシステムは変わる。とにかくこれからも地道な努力が必要だ。設計入札は低い日本の設計料の元凶の1つだ。また建築家のプライドを著しく汚しているだけでなく、これからの日本の都市建築を美しく安全なものにするためには、このような創造性を喚起しないシステムをやめさせねばならない。財務省もWTOの圧力もあって会計法の見直しを始めた。後の世代のためにも私達はがんばらねばならない。

財政再建 コンパクトな財務体制と活性化

財政危機の問題だが、2004年度JIAの決算は1000万円の赤字となった。2005年度に財政担当の副会長を命ぜられ、細かく見させていただいた。前年度分の赤字を返し、かつ2000万円の剰余をあげることができたが、極めてきびしい財政運営をした結果であり、まだまだ支部運営はこれからが大変な状況になると予想されている。本部支部のバランスよい財政運営のため、財政再建特別委員会を立ち上げ、2007年から実行に移すべくマスタープランを作成中だ。

2004年より会費を半額にした。これが良かったかという議論は正直ある。しかしこれにより確実に若い会員が増えた。会員数の長期低落傾向も歯止めがかかりつつあることも確かだ。会費を増額したらという意見もあることを承知している。しかしこの会費を変えたくない。これを機に財政運営の効率化、事業の独立採算化、支部・地域会運営の独立化を図っていきたいと考えている。財政は厳しく、しかし事業は活性化する方向は絶対に行ける。今までのような高い会費を自動的に分配する形から、事業評価のできる財政運営、すなわち事業の助走の

ための資金は出すが、事業が走り出したら採算的にやるという方向に財政運営の方向のパラダイム変換をしたい。

建築設計者資格の確立と独立性

耐震偽装事件は大変大きな問題であった。私たち建築家が社会的な信用を失った事件である。その背景には建築士法をはじめさまざまな社会システムの劣化の問題がある。建築設計者の資格の問題は日本だけが特殊な形式をとれないことが示された。建築家とエンジニアを明確に分け、それぞれ責任をとる体制にしなければならない。また建築家、建築設計者の独立性がきわめて大きな問題となった。設計および工事監理の独立的立場が多くの国民の支持を得ている。JIA は専門設計者の団体として、これから士法・報酬基準告示 1206 の改正を働きかけ、業務環境を改善しなければならない。私は 2001 年に建築学会の会長になったときから、月1回の定期的な5会会長会議を提唱し、それが5年間行われ、建築関係団体が極めて仲良く語り合えるようになったと思う。5会会長会議に私もこれから JIA 会長として復帰するが、8月までの士法改正案作りに他団体と協同しながら国民にとって日本という国によってよき方向を目指したいと思う。

UIA2011 設計大国を目指して

UIA2011 年大会はあと5年に迫っている。昨年 JIA の悲願であった UIA 大会招致は小倉前会長の国際的手腕により実現した。ぜひこれを成功させ、JIA、そして日本において建築文化、建築家の役割を広く国民に知っていただく必要がある。また日本の多くの建築家が外国で活躍する時代になったが、ヨーロッパの建築家が EU 内で多く仕事をしているように、若い建築家がアジア圏をその活動領域とするためにもこの UIA2011 年大会を成功させたい。昨年のイスタンブールの例を見ると、大会経費として約9億から10億かかるとされる。その準備のための資金が必要だが、それは JIA がまず自ら汗をかかねばならない。そのため今年より参加費の申込を受け付けたいと考えている。JIA 会員全員が UIA2011 の大会のため、2008 年ぐらいいまでに前納していただくよう努力しよう。早く申し込みれば申し込むほど安く、さまざまな特典がつくシステムを考えてもらおう。私はこの 2011 年大会を世界に向けて日本が優れた建築家を教育し、世界的な建築家を輩出する設計大国であることをアピールする機会としたいと思う。日本の設計システム、デザインセンスが注目される機会とすべきと考える。地球環境の時代、コンパクトで効率的な設計手法は世界

に評価されるはずだ。同時にまだまだ日本は美しく安全な都市建築に成功していないが、この UIA 世界大会を機に、日本を建設大国、経済大国からアイデア、デザイン、技術の国、設計大国として変身させ、美しく安全な都市建築作りを目指すよう、国民に訴えたいと思う。まだまだ地方支部における UIA 大会に対する認識は必ずしも高くないが、各支部にも UIA 大会準備委員会をつくって活動していく予定だ。

建築家の信頼回復

私はこの2年間、建築家のイメージと業務環境の改善を図りたいと考えている。そのためには建築家をもっと国民に知っていただくなくてはならない。建築家ももっと自分の仕事を社会にプレゼンテーションしていく必要がある。事業委員会、広報委員会、業務委員会、国際委員会の活動を本部、支部を連動して活性化させ、出版、展覧会を数多く企画したいと考える。建築家は名前を出していくことによって、その責任を引き受ける。私はかつて東京デザイナーズスペースの会員だった。この会は日本を代表するデザイナーが展覧会をするための組織で、その中で最もすぐれた展覧会が One Week One Show という週替わりの展覧会だった。毎週パーティーが行われていた。若い建築家だった私はさまざまなデザイナーとの出会いにどのくらい刺激を受けたろう。私は建築家会館をはじめ、各支部あるいは地域会でもっともっと展覧会が開かれるべきと考える。この秋には建築家会館で3ヶ月約50人の展覧会を開いていただく予定だ。また市民向けに建築家が建築談義をするアーキテクトカフェの開催を推進したいと思う。これはサイエンスカフェという科学者・哲学者と市民の交流運動から発想したものだ。「建築家よ、町にでよう」を実現したい。

本部・支部・地域会の連携

建築家協会は本部、支部、地域会の活動が有機的に連携されねば、その影響は極めて限定的で小さなものでしかない。今年度から本部、支部の連携会議、総務、広報、事業、UIA という4つの総合委員会を立ち上げ、情報交流を活性化させたいと考える。ご承知の通り、私の専門はこどもの成育環境のデザインだ。次代を担う子ども達が元気になる都市建築を実現したいと考えている。子ども達を元気にする環境は元気な建築家に活躍してもらわねばならない。

JIA を、建築家を元気にするためにこの2年間懸命にがんばるつもりだ。

(株)環境デザイン研究所

支部長新任の抱負



日本建築家協会
関東甲信越支部長
伊平 則夫

2006年度予算案を作成するに当たって、こと細かに2005年度の収支の数字を確認しましたところ、支部の財務がきわめて脆弱なのに改めて愕然としました。抱負を書くべきところ、冒頭から資金不足の話で恐縮です。会費収入の激減は今に始まったことではなく、2005年度中には、今後の支部運営を考えて財務検討特別委員会を立ち上げ、検討に検討を重ねました。その結果、2006年度は支部会員一人1万円の緊急拠出金を、義務的に集めるという財務支援策を打ち出し、臨時総会を経て、承認頂きました。現在、年会費とともに徴収していますが、1800人以上の会員からの拠出を前提に2006年度予算案が組み立てられています。この場を借りて、拠出金の納入を宜しく願います。今年度はこの拠出金が前提で、これまでのように委員会、地域会活動が継続できるのです。

現在、本部で財務検討をしていますが、どうやら2007年度から各支部への配分方法が見直されることになり、関東甲信越支部は5～600万円ほどの増額が期待されます。それでもなお1200万円からの不足をどうするか、大きな問題が残ります。支部役員会では2007年度以降の財務の問題対策を考え、先手を打って行かねばなりません。会員の皆様にはこの状況を是非理解して頂きたいと思います。

会費の値上げ、支部会費の徴収、支部・地域会構成の見直しなど色々に議論されておりますが、私は、仙田会長と同様に、36,000円会費の値上げには賛成しません。財務の抜本的な解決は会員の増強以外にないからです。関東甲信越支部の場合、正会員はもちろん、賛助会員の増強も大きな課題です。しかしながら、これまでも会員の増強に努力してきましたが、入会者が相当数あっても、退会者も多く、なかなか会員数は増えない難しい状況にあります。会員数6000名を2011年UIA東京大会までの中期目標として、何とか毎年会員増強の成果を挙げて行きたいと思っております。

会員増強に何が課題かを考えます。より魅力あるJIAとなり、会員メリットが確実にあることです。JIAの会員であることがステータスであることも必要でしょう。これは社会がJIA(会員)をそのような建築家の集まりであると認識していなければ駄目です。JIAの発言が社会に重きをもって受け取られることです。

そのためにも今まで、我々は職能に関する様々な問題提起、発言をしてきました。構造計算書偽装事件に対するJIAのコメント・行動、建築家資格制度に対する提言、入札によらない設計者選定(法)、多様な発注方式(D/B*、PFI**など)に対する意見、第三者による監理問題に対しての国土交通省への働きかけ、業務報酬な



UIA大会東京誘致、イスタンブールにて会員の交流



UIA大会東京誘致、JIAレセプションパーティー世界と交流

ど業務環境改善に向けての主張、など多くの問題について、関連団体の中でも特にJIAがオピニオンリーダーとして情報発信してきました。大変なことですが、これからも継続して行かねばなりません。

このような問題の分析、提言発信はJIAの中の積極活動会員が主として担ってきました。JIAが社会に確たる位置を得れば、建築家としての業務環境が改善されます。それは全会員に大きなメリットになって戻ってきます。多大な時間をかけ、時に金銭的負担もしている積極的な会員は社会的使命だけで、活動しているとは思えません。最新の情報に向かい、会員同士で問題を掘り下げ、また対外関係者とのコミュニケーションなどにも意味を感じているからではないでしょうか。会員の交流促進は大切なテーマです。

積極的に活動に参加する会員は20%程度でしょうか、その他大半を占める非活動会員のメリットは、質の高い最新情報が届けられることだと思います。機関紙「建築家」、支部の「Bulletin」は勿論、JIA活動で生まれる様々な成果物、例えば「業務委託契約書」と「建築家の業務と報酬」、「建築の設計・監理に関する法的責任と権利」など、その他各活動で作成されるレポート、「CMガイドライン」「第三者監理問題」、「PFI問題」なども、どしどし会員に配布されるべきです。また2005年度に始まった「優秀建築選」の作品集が、これから毎年会員に届けられることは大きなメリット・特典になります。それにしても多くの会員に、CPDなどもふまえて、少しでも活動に参加して欲しいと思います。昨年度から活発化している東京の地域会設立の動きは、会員活動活性化に大いに期待が持てます。

賛助会員のメリットには正会員との交流が第一に挙げられます。支部には伝統的な交流委員会があり、正会員、賛助会員によりグループ編成され、それぞれに年間を通じ活発な活動を行っています。こうした活動は引き続き活性化を図りつつ、グループ間交流と、委員ではない正会員の交流参加、そして賛助会員のその他委員会への参加など、さらなる交流促進が、正会員、賛助会員双方に一層メリットあるものになればと思います。賛助会員企業の技術面に主体を置いた広報活動の場もあるべきでしょう。

2006年通常総会に提出した支部長の活動方針には、偽装事件に端を発した建築家の倫理の問題、建築造りは多様な分野、技能の専門家による協同であり、コミュニケーションの重要性、関連して社会一般との問題意識の共有、そして建築家の業務基盤の改善等、について触れました。また、2011年のUIA東京大会への準備と20周年記念大会をアピールしました。

ここでは、関東甲信越支部の財務問題と関連して、会員メリットについて主として述べました。より魅力あるJIAとなり、意義ある活動が健全に出来るよう支部長として会員の皆様のお手伝いをさせていただきます。

(株)久米設計

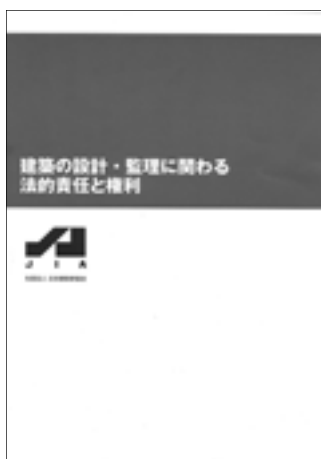
*D/B：デザインビルド：設計・施工一括発注方式

**PFI：Private Finance Initiative

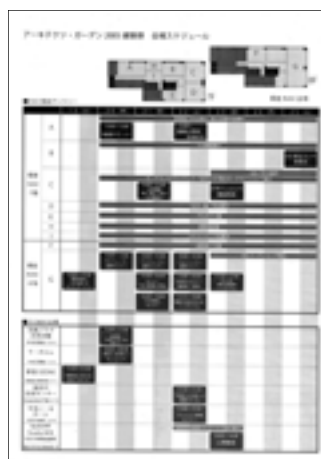
公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う手法



沢山あるJIA発行の書式

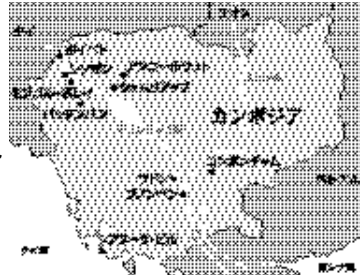


「アーキテツ・ガーデン2005」のチラシ



私が見た カンボジアの原風景

プノンベン、シソボン、アンコールワット
バタンバン、コンボンチャム……



古池 廣行

カンボジアは今、過去 10 年間で平均 7% の高成長を続けていて、活気があふれ若いエネルギーに満ち溢れている。日本では世界遺産のアンコールワットで有名な以外、一般的には知られていないが、日本はカンボジアに対し主導的に和平協力を行い、トップドナーとして橋、道路、灌漑、港湾、医療保健分野、経済特区への経済協力を行っている。

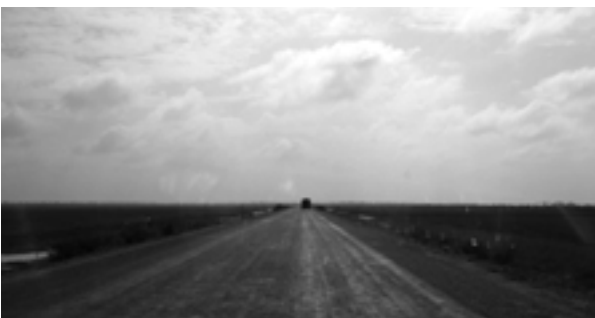
私は JICA の病院プロジェクトで 2004 年と 2005 年の 12 月、そして 2006 年の 4 月から 5 月にかけての 3 回の訪問で、首都プノンベンを拠点にシソボン、シェムリアップ、バタンバン、コンボンチャムと約 2 ヶ月の滞在をし、モンゴル・ボレイ、ポイペト、ウドン、シアヌーク・ビルの街を訪問した。今までは治安上行くことが難しかった地方訪問を通してカンボジアの原風景と街の印象を紹介したい。

カンボジアの中央部は見渡す限り平らで豊に広がる稲穂、牛、砂糖椰子、青い空と雲の風景が広がる。

下の写真はシェムリアップからシソボンに向かう途中の休息で出会った雲の下で草を食む牛の風景である。



雲と牛



平坦で真直ぐな道

シソボンからバタンバンに向かう途中の道路は平坦で真直ぐに伸びている。夕闇迫る頃のドライブは印象深いものがある。国境沿いは山岳地帯であるが、国土の中央部には雨期と乾期で 3 倍も大きさが変わる大きなトンレサップ湖があり、その周囲は平坦な湿地帯で稲作に適し、年間 2、3 回の収穫が可能である。カンボジアは豊かである。

原風景で忘れてはならないのがシュガーパーム（砂糖椰子）の風景である。霧雨の時などは先の方がかすんで見え、幻想的である。



砂糖椰子



プノンベン市内の独立記念塔

カンボジアの街の特徴は街角、ロータリーにあり、必ず印象深い像や塔がある。

王都プノンベンはフランス統治時代に開発され「東洋のパリ」と称されていたが、1975 年 4 月、ポル・ポト軍の入場で一時はゴースタウンとなった。今、街は人物があふれ世界各国のレストランが軒を並べている。プノンベンの街を特徴付けているのはモニュメントのあるロータリーと華やかなレストラン街である。前者はワット・プノン、セントラルマーケット、独立記念塔であり、後者はトンレサップ川側沿いのシソワット・キー通りや独立記念塔があるノロ・ドム通りである。

街の交差点に面する建物は必ずコーナーに入口があり、上階は丸いバルコニーを設けるのが約束事になっているようだ。歩道の幅はゆったりとしていて車が縦に止まっても人が通れるほどで、時には露天商のスペースとなる。コンボンチャムやシソボンの地方都市も同様である。



プノンペン地名発祥のワット・プノン



アンコールワット

シソポンはカンボジア北西部のタイ国境へ約 40km のところであり、タイからアンコールワットとプノンペンへの分岐となる交通の要所である。この街入口のロータリーの一つにサルハヌーン像がある(写真左下)。



モンゴル・ボレイはシソポンからバタンバンに向かう途中にあり、町への入口には写真(右上)のような仏頭がある。同様なものは街道筋で良く見かける。

バタンバンの入口には巨大な黒い像(写真下左)があり、ちょっとびっくりする。



バタンバンの街入口にある黒い像



モンゴル・ボレイ川の屋根付木造橋

モンゴル・ボレイ村の川に架かる木造橋は屋根が付いている。時には牛車がこの屋根付き木製橋を通る。このモンゴル・ボレイ川もトンレサップ湖につながり、乾期と雨期で水位が大きく変化する。



木造橋を通る牛車、モンゴル・ボレイ川



モンゴル・ボレイ川

プノンペンから北東約 120km のコンボンチャムには日本の援助で完成したメコンに架かるスピアン・キズナ(絆橋)があり、橋入口のロータリーに完成記念の碑とシンボルがある。この橋は 500 リアルの紙幣に印刷されている。



スピアン・キズナ(絆橋)完成記念碑



日本の援助で完成したスピアン・キズナ(絆橋)

カンボジアの農村で良く見かける家は高床式で小さな切妻屋根が二つ、三つと重なった形をしている。家族が増えると屋根を継ぎ足すとのことである。継ぎ足した部分が谷樋となるが、雨水を溜めるのに役立っている。



今春、整備計画策定のためコンボンチャム病院に訪問した際、四体のガルーダ像が整備計画で取り壊す予定の建物の四隅にあった。なかなか立派なので、これを計画建物に取り込もうと思案中である。

(株)梓設計本部国際部



コンボンチャム病院のガルーダ像

リスボンの経験から 保存問題委員の活動へ



保存問題委員会委員
倉澤 智

今年度より、保存問題委員として、様々な保存問題の活動に参加しています。2年程前、神奈川県立近代美術館 100 年の会主催による近代美術館見学会の折りに、現在、保存問題委員会相談役の兼松紘一郎さん、および私の前任である藤本幸充さんにお会いしたことが、保存問題委員で活動するきっかけとなりました。委員になる以前の経験として、1997 年 10 月から約 2 年間、ポルトガルのリスボンに遊学し、保存された歴史的建造物に囲まれた生活をしてきたこともあり、保存について関心をもっていました。

リスボンでの経験とは、たとえば、カルモ修道院の廃墟の経験があります。この廃墟は、1755 年、マグニチュード9と推定されているリスボン大地震で破壊された修道院跡であり、大地震の記憶を留めるために、現在でも広島島の原爆ドームのように廃墟のまま保存されていま



リスボンのボンバリーナ

す。リスボンの中心のどこからも目に入りやすい位置に廃墟があるため、市民に対し、大地震の記憶を蘇らせる装置として機能していると言えます。また、この大地震後に、ボンバリーナと呼ばれる木造の都市建築がリスボンの中心バイシャ



ポウザーダ・サンタ・マリア・デ・ボウロ

撮影：倉澤智

地区に建設されたのですが、1988 年に大火災があり、その一部が焼失しました。その再建を、リスボン滞在中、アルパロ・シーザ・ヴィエイラを中心とした建築家たちが行っており、工事の状況を日々観察する機会をもちました。さらに、ポルトガルの歴史的建造物の現代的利用の範例と言えるポウザーダと呼ばれる国営ホテル（スペインのパラドールに相当する）の見学も貴重な経験となりました。修道院の廃墟などをポルトガルの建築家の手によって保存活用し、地域の景観保全を踏まえた国営ホテルに蘇らせています。そのひとつ、ポウザーダ・サンタ・マリア・デ・ボウロは、建築家エドワルド・ソウト・デ・モウラによる仕事ですが、この国営ホテルを見学し、その建築としてのレベルの高さに感動し、保存、あるいは歴史的建造物の現代的利用といった建築の在り方の可能性を強く意識するようになりました。

リスボンはヨーロッパ辺境の都市とはいえ、都市の中に歴史的建造物が数多く存在し、先に述べたような建築的な出来事をごく自然に経験できる素晴らしい都市でした。都市が様々な時間と記憶の織物であることの重要性を身近に感じられたリスボンでの経験は、保存問題委員として活動していく原動力になると思います。

さて、それでは現実の保存問題委員としての活動はどうかといえば、最初から試練が待ち受けていました。今年の5月、要望書を提出したアントニン・レーモンド設計によるスタンダード石油社宅（通称ソコニーハウス）については、いまだ所有者の理解が得られない状況です。私の地元である神奈川では、旧帝蚕倉庫事務所、横浜ストロングビル、旧山口勝蔵別荘など数多くの案件をかかえています。保存問題は、まずは所有者の方々のご理解が必要なことは言うまでもありません。そして、保存を要望する市民の方々、歴史家の方々、保存問題委員や各地域会をはじめとする JIA 会員の方々との協働作業によって、問題が共有化されたとき、より大きな力になると思います。引き続き、微力ながら、よりよい解決策に向け努力していきたいと思っています。 (有)倉澤智建築事務所

建築相談から見る 木造住宅の現状



JIA首都圏建築相談室
相談員
藤田 譲

木造住宅の設計に対する相談事例

「建築家紹介システムに申し込み、自宅の設計者をコンペで選びました。工務店も紹介してもらい、この春完成。コンペの案は気に入っていたのですが、工事が始まってから、設計上の問題がいろいろあることに気づいたのです。」

相談者は、仕上げ材の選定や使い勝手の悪さなどを列挙するが、一番の問題は、エアコンが機能しないことという。天井隠蔽式エアコンを設置したが、ダクト長さおよび吹出口の数が、エアコンの能力を超えており、三月、四月のまだ肌寒い日々、吹き出し口から暖かい空気が出てくることはなかった。今後、エアコンの増設とそれに伴う、内装工事が必要になるが、その

費用を建築家に請求できるかとの相談です。

工事中に工務店がエアコンの機種変更などを要望したが、建築家が認めなかったこと、建築家と建て主のメールのやりとりなどを見る限り、残念ながら建築家の落ち度と言わざるを得ない状況。建築家が信頼を失ったことが問題の根底にあるようです。「建築家は、彼の作品として設計しており、住む我々のことは考えてくれないのだということが分かり失望しました」という相談者に対して、費用負担について建築家と協議することを勧めました。

木造住宅に関する相談事例

毎月開催されている相談室報告会で木造住宅における雨漏り、床のたわみ、建物剛性不足などが報告されます。これら瑕疵とか欠陥住宅と言われるものの中にも、設計に起因するものが多くあります。

五月の連休に相談を受けた例では、二階建て木造住宅の屋根に設けたベランダから雨漏りがして何度リフォーム業者に修理してもらっても直らないというものがあります。写真を見ると、排水口まわり、防水立上部、ベランダ笠木、ベランダ出入り口など雨漏りするディテールになっています。相談者にその旨を伝え、部分的なリフォームでなく根本的な対策、この場合ベランダを一旦撤去することを勧めました。

また、一昨年NPO木の建築フォーラムにおいて行われた木造住宅の構造的瑕疵の調査に参加しましたが、その調査結果をみると木造住宅の構造的瑕疵の八割は

設計に原因があり、さらにその半分は基本設計に起因するものです。

木造住宅設計の問題点

現在、住宅ブームで、木造住宅の人気も高いのですが、建築相談や日々の業務を通してその実態をみると問題を感じる点もあります。

一つは最初の事例でみたように、デザインや数値化された性能以外の目に見えないもの（使い勝手、住心地、気持ちのよさ、メンテナンスなど）を建て主の立場に立って丁寧に設計するということが軽視されていないかということです。

もう一つは、木造住宅の基本的な納まりがおろそかにされているのではないかとということ。構造に関しては、阪神大震災後、木造住宅の耐震性に関する規定は計算方法・金物使用方法を中心に充実してきましたが、それらを支える架構設計の具体的な規定というものはありません。架構や納まりが考慮されずにプランやデザインが優先された設計も多く見られますが、それらに対し合理的な架構設計を行うことは困難で、架構設計者が伏図作成に苦労しているのが現状です。

家を新築しながら相談室を訪れざるを得ない人のことを思うと、設計者が木造の原点に立ち戻り、建て主の対場にたった設計をするというあたりまえのことが、大切なのではないかと考えています。

藤田譲設計室

ライト建築 アーカイブズ日本

WAAJ: Wrightian Architectural Archives Japan



ライト建築
アーカイブズ日本
代表理事

森晃一氏

ライト設計のオハイオ州Westcott邸（1906）にて
左：WAAJ理事Karen Severns氏、右：WAAJ代表理事 森晃一氏

ライト建築アーカイブズ日本は、フランク・ロイド・ライトの有機的建築とその思想を伝えていこうとするNPO団体です。米国のフランク・ロイド・ライト財団に正式に承認され、支援をいただいている世界で唯一の団体として、米国内の数々のライト関連団体と交流しています。

日本は米国以外で唯一、ライトの建築が残る国として、深いつながりがあるにもかかわらず、ライトが目指した有機的建築の哲学や原理を総合的に伝える機会も、学ぶ場所もありません。私たちはその機会と場所を創るために、フランク・ロイド・ライトの初来日から百周年の2005年11月、NPO法人を設立しました。ライトの建築思想だけでなく社会全般のあり方をも思索し、発展できる機会を広げることを目的に、日本に残るライトとライトに関わった人々の活動の成果、記録、資料などの散逸や死蔵を防ぎ、さらに、建築作品の文化的価値の認識を高め、活用することを目指しています。それが、最大の目標であるライトプレイス（仮称）というホームミュージアム計画です。世界中からライトを愛する人々や研究者が集まり、新しい発見をし、相互に理解を深められるアーカイブズでの活動が、ライトと日本のかかわりを通じて、日本建築の伝統を守るとともに、自然に学び、自然を尊重する社会の構築にも貢献すると信じます。

ライトと日本のかかわり

フランク・ロイド・ライトは1880年代、シカゴで浮世絵に出会い、日本に憧憬を抱きました。そして、1905年の初来日から数回来日し、日本各地を訪れて美術品を蒐集しました。帝国ホテルプロジェクトのために訪れた1916年から1922年の離日まで、ライトは日本に長期間滞在しました。その間にライトは、日本の美術だけでなく、日本での生活、教育、建築活動を通じて、日本への理解をより深めました。

そして、この時期にライトの設計活動を支援した遠藤新や田上義也を始めとする日本人建築家たち、そして、ライトの帰国後、米国に渡りライトに学んだ土浦亀城や岡見健彦、第二次世界大戦後、渡米した星島光平、天野太郎、遠藤楽、一ノ宮賢治、1919年末に帝国ホテルプロジェクトで来日し、1973年の離日まで日本で永く活動を続けたアントニン・レーモンドなど、ライトの弟子たちがそれぞれ独自の建築で足跡を残しています。

設立までの経緯

私のフランク・ロイド・ライトへの興味の発端は、東京に残るライト設計の自由学園明日館との出会いでした。大規模修復の前でしたが、敷地全体が見事に美しく計画され、特に内部空間に感動したのを覚えています。それまで、私は世界の多くの建築を見ていましたが、これ程、

1. 「WAAJセミナー：聞いておきたいライトの話」

WAAJセミナーは、偶数月に開催を計画しています。会員だけでなく、多くの方に参加いただけるイベントです。フランク・ロイド・ライトおよびライトに学んだ建築家、ライト関連の保存・修復・研究に携った方々に、これまであまり聞く機会がなかったフランク・ロイド・ライトに関する話題をお話しいただいています。

2006年の計画

- ・ 4月22日 ライトの置き土産 / 日比谷三角ビル
語り手：井上祐一、南迫哲也
- ・ 6月 3日 ライトと暮らし、学ぶ：アプレンティスの生活
語り手：土井由美ほか
- ・ 8月26日 ライトから繋がる建築(1)：レーモンドに学ぶ建築
語り手：北澤興一ほか
- ・ 10月14日 ライトとモダニズム 空間を創造する建築
語り手：香山壽夫ほか
- ・ 12月21日 ライトから繋がる建築(2)：土浦亀城と信に学ぶ建築
語り手：小川信子、田中厚子

2. 「WAAJ見学会：実感したいライトの系譜」

WAAJ見学会は、奇数月に開催を予定しています。フランク・ロイド・ライトの建築の考え方を体感していただくことを目的としています。

2006年前半の計画

- ・ 3月25日 小宮一郎邸（遠藤新設計）および学園町散策
東京都東久留米市
- ・ 3月25日 自由学園南沢キャンパス（遠藤新/遠藤楽ほか設計）
東京都東久留米市
- ・ 5月28日 矢田部勤吉邸（遠藤新設計） 東京都武蔵野市
- ・ 7月22日 萩原庫吉邸（遠藤新設計） 東京都世田谷区

感銘を受ける建物はありませんでした。その後、明治村に旧帝国ホテルを訪ね、米国で大事に活用されている多くのライトの建物を訪れました。そして、日米交流の象徴として、ライトが住んだ日本の長編映画を創ることが、私とパートナーであるKaren Severnsとの目標になりました。私は、タリアセン・ウェストあるアリゾナ州のサンダーバード国際経営大学院に留学し、Karenは、ニューヨークのコロンビア大学で映画製作のための調査と脚本づくりに取り掛かりました。

帰国後、長編映画製作のための詳細調査を行ない、多くの方々にお会いし、インタビューを行い、貴重な資料を見せていただきました。そのなかで、ライトが日本に住んだ時期に関する多くの資料が目につける機会を失い、散逸し、またライトと身近に接した方々が高齢になって、ライトと会った第一世代の方々が少なくなっていくとい

う現実に直面しました。真実に繋がる記録と体験の証言の重要性は、皆さんもご存じと思います。ドキュメンタリー映画「偉大なるオブセッション：フランク・ロイド・ライト/建築と日本」は、長編映画の製作の過程で生まれたドキュメンタリー映画です。

元日本建築家協会会員、故遠藤楽氏は、フランク・ロイド・ライトの元

アプレントイスで、帝国ホテルの保存運動に尽力し、生涯ライトとの深いつながりをもった方です。私たちは、映画製作の過程でお会いし、多大な支援をしていただきました。そして、2003年7月に遠藤氏が他界されると、それまでライトや遠藤新に関わる資料、図面などの保管について、話し合い、整理を進めていた有志のグループが結集しました。1990年代に遠藤新氏の活動を論文にまとめた方々です。このように、アーカイブズがはじまる前段となる、多くの方々の活動と思いが、アーカイブズの設立検討の大きな推進役になりました。そのなかには、元東京大学教授樋口清氏、工学院大学名誉教授南迫哲也氏、文化女子大学短期大学部教授井上祐一氏、東京藝術大学名誉教授前野まさる氏、日本女子大学名誉教授小川信子氏、建築家/タリアセン・アプレントイス野村一郎氏、建築家北澤興一氏、遠藤楽夫人遠藤雅子氏など、ライトの遺産の重要性を知る20名を超える建築家、建築史家、元ライトアプレントイス等の方々がいっぱいます。2年半にわたってミーティングを重ね、2005年10月、ライト建築アーカイブズ日本は、特定非営利活動法人として内閣府に設立認証され、2005年11月7日にNPO法人として設立されました。

ライト建築アーカイブズ日本の活動

ライト建築アーカイブズ日本の活動には、会員向けのもの、会員外も参加いただけるものがあります。日本建築家協会の会員の皆様をはじめとして、建築、都市計画、教育、地域活動、保存運動など様々な方面で活躍されている皆様、学生やライトファンの皆様に、フランク・ロイド・ライトが希求した有機的建築とその思想を知っていただく機会を提供していきます。



WAAJ創立キックオフイベント
(東京・池袋、自由学園明日館講堂にて)

3. 「WAAJスペシャルイベント」

ライト建築アーカイブズ日本の記念行事や会員向けのイベントで、会員相互の親ばくや研究発表の機会にするとともに、有識者の皆様のご意見をいただく機会にもしています。また、未来を担う世代に、フランク・ロイド・ライトを知っていただく機会を提供することも実施しています。

・9月24日、自由学園明日館講堂にて「WAAJ創立キックオフイベント」を開催しました。午前中は、「明日館を積み木で作ろう!」と題した小学生を対象としたワークショップを行いました。午後は、パネルディスカッション「ライトと日本の出会いの意義」を行いました。黒川紀章、香山壽夫、Alex Kerr、Margo Stipe、南迫哲也の各氏に、ライトと建築について講演していただき、モデレーターの中田千彦氏(a+u誌 副編集長)にまとめていただきました。夕方からは、モダン箏コンサート、NPO創設発表と交歓会、ドキュメンタリー映画「偉大なるオブセッション：フランク・ロイド・ライト/建築と日本」日本プレミア上映会を行いました。

2006年の計画

- ・8月 帝国ホテル ライト・スイート・ルーム見学会 東京都千代田区
- ・11月8日から14日 WAAJ創立1周年記念展 東京都中央区

ご協力をお願い

セミナーや建築見学会、会員向けの勉強会を通じて、ライト建築アーカイブズ日本の活動を知っていただき、ぜひ、将来に向けた活動であるライトプレイスにも、ご参画いただけますことを期待しております。また、フランク・ロイド・ライトに関する資料、写真、品物、また、ライトに学び、働いた方々の記録など、お持ちの情報をご連絡をいただけますよう、お願いいたします。

ライト建築アーカイブズ日本

本部住所：東京都新宿区北新宿1-4-9-201 〒169-0074
電話/ファックス：03-5875-5110
公式ウェブサイト：www.waaaj.net (2006年8月開設予定)

JIAトーク 2006.5.10

北大路魯山人先生にお仕えして

懐石・辻留 亭主 辻義一



竹内 裕二

随分と前の話なのだが、建築雑誌「ディティール」に建築用語辞典を書いたことがある。建築家という項目に、夜な夜な赤ちょうちんを求めて彷徨い歩く人種と書き、自分のことを欄に上げて設計と研究に明け暮れている建築家の方たちに変に申し訳ないことをした。辻義一さんとは、その昔、あるパーティでお目にかかり、当初、何のお仕事をしておられる方かは存じあげなかった。その数日後、深夜、赤ちょうちんならぬバーのカウンターでばったり隣同士になった。

ひとりで飲みに行く時は、気に入っている立ち呑み屋、渋谷「富士屋本店」に行くのだが、年に数回しか行かないバーで2回も出会ってしまい、親しくなった。

「辻留」は東京を代表する懐石料理の店である。20数年前、青山通りに面していた頃、予約も無しにふらっと入り、大変に丁寧なもてなしを受けた記憶がある。その後、ご亭主と知り合いになるとは思ってもいかなかった。今の赤坂の「辻留」も料理だけではなく万事すべてにさりげなく気が配られた絶品のお店である。

10年近く前に『魯山人・器と料理 持味を生かせ』という料理のカラー写真満載の書籍を出され、その出版パーティに招待されたのだが、イタリアに行っている間で残念なことをした。発起人の欄には学者、画家、スポーツ、マスコミ、芸能人とあらゆる分野の著名人が記載されており、辻さんの人気のほどが偲ばれた。



JIAトークのこの日はホール満席となり優に100人を超える聴講生がいた。和服姿で語る話の内容を料理学校の生徒さんたちはびっしりとノートをとっていた。

和食の偉大な達人、父親の辻嘉一、初代の留次郎、三代目の辻さんは親しい仲間からは義っちゃんと呼ばれているが、修行時代の子供の頃は「雛留」と呼ばれ、懐石料理をみっちりとしごかれていた。20歳の頃には、すでにいっばしの料理人となっており、当時は天狗になっていたのだろうと回想をする。父親の勧めた進路には耳を傾けず「鎌倉に魯山人というすごい人がいる、その人のもとで修行をしたい」と恐いもの知らずの「雛留」さんは一大決心をする。

後に質問もあったが、ちまたに聞く魯山人の風説は口うるさい頑固な陶芸家のようなのである。魯山人のもとで、日に三度、四度と食事を創り、書家としてもその道を極めている名人のもとで、どうであったのだろうか。確かに人を怒らせることも言う、ところがまたその人が遊びに来る、と話が続く。辻さんは魯山人のもとで味覚の訓練、器に盛りつけの妙、豪放と繊細の共存、心小肝大、天性のものを見る眼、素材の持ち味を生かせ、素材を生き物として扱う心、等々と学んだ。

鎌倉の家には久保田万太郎、久米正夫、川端康成、高見順、谷口吉郎、服部一郎、京マチ子と、数えきれないほどの人たちが遊びに来た。そこではおもてなしの心を学んだ。すべて魯山人を通じている。

JIAトークに色紙を書いていただいた。

「辛・酸・鹹・苦・甘 (しん・さん・かん・く・かん)」。ものの味、五味を言う。鹹は塩水を鹹水という。塩を中心にした味を意味する。勝手ながら、酒、ワインにも通じる、そして人生にも通じている。

しんさんかんくかん。



(株)竹内裕二建築設計事務所

メンテナンス部会

部会長に就任して

明快な回答を具体的な設計図書とわかりやすい言葉で



メンテナンス部会長
宮城 秋治

1. 建物もういらぬ

いざなぎ景気を追いぬく勢いが都心にそびえ立つタワークレーンに見とれます。多くが高層マンションで定年後の終の棲家として購入される熟年夫婦や30代の若い世帯が主役のようです。一方で密集する木造住宅群や老朽化して放置されているRC造の建物もかなり目につきます。郊外に開発された団地群では高齢化が進み、空き家が増えて転売価格も下落しています。昔ながらの建物が次々に壊されて再開発が進む北京に代表されるようなアジアの都市開発の二極化という姿がじつは東京でもまだ繰り返されているのです。建設市場が経済を引っ張る社会構造はとくに終わっているのに、売れるから造るという理屈だけで、ねじれた社会に気が付かない振りをして、まだ幻想を追いかけているかのようです。

2. メンテナンスする

円熟した先進国では、今ある建物を大事に使い続けることや、時代の変化にあわせて建物をリセットすることをたいへん器用になします。建築家に求められる役割も新築だけのノウハウではこと足りません。バブルが膨らみ出す前の1987年に立ち上がったメンテナンス部会は、そんな建築家像を目指して活動を続けています。建物の維持保全、修繕、改修、再生、コンバージョンといった分野で部会員は活躍し、そのノウハウを部会で情報交換することで技術の研鑽を図ります。今年度のメンテナンス部会は幹部の若返りを図り、昭和30年代の部会長と副部会長が就任しました。(世間ではいい歳ですが建築界ではまだ鼻垂れ小僧呼ばわりされます)さらにもっと若い世代をリニューアル分野で活躍できるように育てていく必要があるからです。

3. 耐震アドバイス

このところメンテナンス部会で大きな役割を果たしているのが耐震診断です。耐震偽装に端を発した問題が、既存建物の耐震改修を促進する施策を後押しする結果になっています。世田谷区や杉並区と連携して耐震診断のためのアドバイスや簡易診断をおこなっているJASO(耐震総合安全機構)にメンテナンス部会から多くの人材を派遣しています。相談の依頼は非木造住宅なのでマンションが多いのですが、管理組合に構造の専門家だけが行って、素人の目線での的確なアドバイスは難しいのが実情です。意匠担当のメンテナンス部会員(JASO会員でもある)が構造担当と設備担当を伴って現地を訪れて総合的

な見地からアドバイスをおこなっています。

4. 改修セミナー

多くの団地をかかえる多摩市とマンション改修セミナーや改修工事見学会も毎年おこなっています。今年は6月にマンション耐震セミナーを開催し、耐震強度偽装問題も取り上げました。11月には多摩ニュータウンでメンテナンス部会員が設計監理を手がけている改修工事現場を見学し、これから改修工事をおこなおうとする管理組合の方々に参考としてもらう企画を立てています。

毎月の例会ではこれまで部会員中心の事例報告が主だったのですが、今年は外部からの講師もお呼びしてセミナーをおこなっています。第1弾は5月に財団法人マンション管理センターの技術部長(小迫政幸氏)にマンション管理標準指針とみらいネット(履歴情報システム)のお話を伺いました。第2弾は7月に国土交通省住宅局住宅生産課(河田崇氏)と財団法人建築環境・省エネルギー機構(由本達雄氏)に省エネ法の改正について解説いただく予定です。セミナーはCPD認定をとって一般にも公開していますので、いつでもお越しください。

5. 建築家のこれから

社会から求められる建築家の役割や責務、モラル、価値観などあらゆる要素が変わってきました。20年ほど前からそんなニュアンスを嗅ぎつけた建築家がメンテナンス部会に集い、コツコツと活動を続けてきました。ここにきて部会と実務が接近して、行政からの要請もダイレクトに受けるだけの実力も付けてきました。

今は建築家の信頼を回復することが第一です。その先に、地球温暖化を抑える省エネルギー対策、人口が減少し世界トップの超高齢化社会の到来、首都直下型大地震への備えなど、あまりにも多くの課題が建築家に突きつけられているのです。

新たなフローは最小限にして、あまりにも多く造ってしまったストックをいかに活用していくかが命題です。明快な回答を具体的な設計図書とわかりやすい言葉で示すことができる建築家をメンテナンス部会では育てていきます。

宮城設計一級建築士事務所



多摩市共催マンション耐震セミナー(2006.06.10)

デザイン部会

新人賞受賞者講演

遠藤政樹氏の「ナチュラル・エリプス」



堀川 秀夫

2006年JIAデザイン部会の第1回目は、新人賞受賞者講演として遠藤政樹氏を迎えた。受賞作品「ナチュラル・エリプス」を中心としたレクチャーだったが、ほぼ全作品をプレゼンテーションしていただき、非常に中身の濃い時間を過ごすことができた。

私が「ナチュラル・エリプス」を初めて目にしたのは、ある晴れた日の夕暮れ時である。渋谷の路地裏を抜けながら歩いていると、突然卵型に空を切り取ったシルエットが目の前に浮かび上がってきたのが印象的だった。パースペクティブに見たその卵は、高崎正治氏の名作「結晶の色」を彷彿とさせ、私にとっては強烈な、そして自分好みのイメージをもたらす。雑誌に発表されてから、数多くの人間がこの住宅を探しにこの場所を訪れたに違いない。そしてやはりこの住宅を語るのに、その特異な周辺環境に言及しないわけにはいかないだろう。この文章のためにそのシーンをでっちあげて書いたのではなく、本当に、私が「ナチュラル・エリプス」を見てその場所から踵を返そうとした、日が完全に落ちるのにはまだ少し時間があるそのときに、作品に面して建っているラブホテルから、情事を楽しんだあとの中年男性と若い女性のカップルがそそくさと出てきたところに遭遇してしまったのだ。

一見すると、この宇宙的なフォルムをもった住宅には住人の生活感を感じ取ることが難しいかもしれない。そしてそれは、建築家の意図したことの一つなのであろうか。確かに遠藤政樹氏は、自由な建築をつくる上でのしがらみとなる様々な条件（敷地や道路から発生する条件やコスト面、クライアントの要求事項など）を感じさせずに建築を成立させたいと話していた。住宅に生活の匂いを感じさせないでつくる上手なデザインという切り口よりも、私は、この「匂いすぎる」敷地周辺環境から遮断された無菌の宇宙を建築家は構想したのかもしれない、とラブホテルから出てきたカップルの後ろ姿を見ながら想った。

遠藤政樹氏の建築は、美しいプロポーションを見せながらも有機的なフォルムを持ち、「建築の外観」をしつかりと主張した作品が多い。遠藤政樹氏に言わせれば結果としてそうなったのかもしれないが、意図的にファサードをあいまいつくる建築よりも好感が持てると感じたのは、私だけではなかったはずだ。作品「ナチュラル・ユニット」は、柔らかくカーブした外壁にスリットの開口部が設けられ、より有機的なイメージを加速させている。建築にアイデンティティを感じる作品で、実際にこの建築を見に行けば「ナチュラル・エリプス」とは違った驚きを感じるかもしれない。

遠藤政樹氏のもう一つの側面は、テーブルやチェア、ウインドーなどのプロダクトデザインも行い、それを企業とコラボレーションしていることだ。そうしたデザインワークから未知との素材に行き当たり、それを自分の建築にフィードバックすると言う。「初台のアパート」では、「建築を考えるよりも、ユニットを考えた」というアプローチも頷ける。

建築家が建築をつくれれば、建築家の性格も建築にでてくるのだろう。「とてもいい人」な遠藤政樹氏は、多くの人間から親しまれクライアントを増やしながらか、これからも魅力的な建築をつくり続けてゆくに違いない。



ナチュラル・エリプス（設計：遠藤政樹）

(株)堀川秀夫造形建築研究所

JIA神奈川

大学卒業設計コンクール



運営委員長
鈴木 與

地域会だより

大学生の卒業制作を対象に、創造性・表現力の評価と、実社会で活躍する建築家と学生のふれあいの場として、第17回JIA神奈川大学生卒業設計コンクールが3月18日、神奈川大学体育館で、応募者や建築を学ぶ多くの学生たちの見守る中開催されました。

参加作品は、神奈川県内で建築学科をよする8大学を対象とし、各学校推薦5作品以内の条件で応募を募ります。今年度は、横浜国立・東海大・神奈川大・関東学院大・明治大・慶応大・東京工芸大より各5作品・職業能力開発大より1作品の応募があり、計36作品が会場に展示されました。審査員の構成はJIA会員で、公共建築、商業建築、住宅建築、まちづくり等で活躍されている建築家を対象に神奈川より2名、招待審査員1名、神奈川県建築コンクール入選者1名、構造建築家1名で行われました。

審査会は午前：一次審査・午後：二次審査で各賞を決



めます。審査員の方には、作品応募時に提出されたコンセプト集を事前に配布し当日の審査が行われました。

一次審査は各審査員が10票を持ち、投票し、上位半数を通過作品としています。

工夫を凝らした作品のプレゼンテーションを前に審査員の方々は、一作品ごと、作者との質疑応答が展開されました。予定時間を90分も延長する熱心な審査の結果、12作品を一次審査通過と決定しました。

午後になると公開審査の様子を見守る学生やJIA会員の数も増え、審査会場も一段と賑わいと熱気があふれてきました。二次審査は、審査対象作品ブースに審査員の方々が移動し、ヒヤリング・質疑応答の結果を評価し各審査員が金・銀・銅各1票を投票してもらいます。その後、投票結果をもとに審査員間討議により各賞を決めて行きます。例年二次審査では、得票数だけにかかわらず、各審査員の価値判断を重視して長時間の討議が行われていますが、今年は審査員評価がほぼ一致した感がありました。奨励賞については、入賞は出来ないが審査員ごとに評価できる作品を1つ選んでいただきました。

この審査会において、実社会で活躍される建築家の方々の、明快で鋭い視点による励ましや批評、作品に対して示される理解力は、学生たちにとって大きな励み、思い出になったと思います。

JIA神奈川では、審査員の議論・応募作品を前にしての作者とのやりとり、各賞の決定までのすべてのプロセスを公開する方式を今後も継続して行きたいと思ひます。

(株)神奈川建築事務所

審査結果

賞	氏名	(大学名)	作品タイトル
金賞	石山 裕樹	(明治大学)	低層高密度集住体
銀賞	町田 淑之	(東海大学)	都市補強体 減築から始まるウラハラ活性化大作戦
銅賞	平辻 里佳	(横浜国立大学)	きんじょのはて ダメな郊外に立つ公共的な施設
奨励賞	北川 美菜子	(横浜国立大学)	地球の見える場所
奨励賞	信田 健太	(東海大学)	GROOVE NET 都市創発の源泉
奨励賞	池上 知見	(関東学院大学)	放課後時間
奨励賞	成松 佳恵	(慶応義塾大学)	Shinkiba Urban Umbrella 街へ溶け込む駅



JIA千葉 「未来の美学へ」

第18回千葉県建築学生賞



千葉県建築学生賞
協議会会長

寺川 典秀

古くより、その時代の文化を象徴してきた都市と建築はこれから、何処に向かおうとしているのか
今、彼らと語り合ひましょう
未来の美学を……。

表彰式



[作品集換抄全文]

JIA 千葉は、県内建築関連団体との協働により、千葉県建築学生賞展示会を例年桜舞う頃開催しております。

1988年に発足した千葉県建築学生賞は、県内に建築関係学科を持つ四年制大学各位と建築を通じて広く社会に資するための意見交換、さらには意識交流を図る場としてこの機会がもたれ、同時に将来性溢れる学生諸君への精神的支援の一助とすべく、記念すべき卒業設計の優秀作品にエールを贈ることを学生賞の目的しております。

本年度学生賞は第18回を迎え、千葉市生涯学習センターにて、夢と才能溢れる20作品エントリーでの開催の運びとなり、佐部利健太君(日本大学生産工学部建築工学科)が最優秀賞を受賞しました。

*参加大学：千葉大学工学部デザイン工学科・都市環境システム学/千葉工業大学工学部建築学科・工業デザイン学科/日本大学理工学部海洋建築工学科・社会交通工学科・生産工学部建築工学科/東京理科大学理工学部建築学科/東京電機大学工学部建築学科・情報環境デザイン学科/明海大学不動産学部不動産学科(6大学11学科)

さて、多くの地域会同様 本会もあるべき姿が歴史を重ねるごとに進化・成長してゆくように、近年では冒頭の基軸をぶらさず、知性と感性のリアリティーを育む場面の設定をしました。

Vigor

・市民を交えた……

「公開プレゼンテーション+ヒヤリング+審査」

・県民からの審査員

召喚……

「特別審査員：モンキー・パンチ 大手前大学教授」

・学生&指導教官&審査員による……

「表彰式フリーバトルトーク」

・メダルよりうれしい……「作品集作成」 etc.



会場風景

加えて、展示会場では広く全世代の市民の方々と積極的な交流を図り、多角的な視点で身近な建築文化に対する社会との接点が得られることを趣旨とし、ヴァリエーションに富んだプログラムを練り込むことを試みました。

Event

・県内高校建築系学科生の……

「構造実験+模型製作実演+作品展示」

・小・中学生による、私の住みたいまち……

「未来の建築家 絵葉書コンクール」

・幼児・小学生の紙片工作体験コーナー……

「つくりながら考える！何ができるかな？」

・率直な市民の声……「市民アンケート」

・悩みを抱え込まないために……「建築相談」 etc.

昨今、設計界のモラルが問われる中、表彰会場では学生ながら都市と建築に対し「凛とした高い品位」を示すトークが繰り広げられ、彼らの今後に多くの期待を確信致しました。

最後に、作者を愛し見守りながらご指導にあられた各先生方に敬意を表させて頂き、総来場者数2,640名を数えた本会が関係各位の文化的価値観に支えられ、心も桜色の中閉幕できましたことに対しまして、紙面をお借りし深謝申し上げます。

*後援：千葉県/千葉県教育委員会/千葉市/千葉市教育委員会/千葉県工業系高大連携推進委員会/NHK千葉放送局/千葉県ケーブルテレビ協議会/朝日新聞千葉総局/読売新聞千葉支局/毎日新聞千葉支局/産経新聞社千葉総局/千葉日報社/日本建設新聞社/日刊建設工業新聞社/協賛26団体

*主催：(社)日本建築学界関東支部千葉支所/(社)千葉県建築士会/(社)千葉県建築設計事務所協会/千葉県建築家協会(JIA千葉)

(株)意匠院



併設展示：幼児・小学生の紙片工作体験コーナー

JIA新潟地域会

前川國男新潟学講座



上山 寛

地域会だより

前川國男建築展が昨年末より東京ステーションギャラリーを皮切りに全国各地で開催されています。建築家の作品展が大規模な美術館で開催されること自体が珍しいことではないでしょうか。新潟市美術館では、郷土作家シリーズとして生誕100年・没後20年「前川國男建築展」を6月17日よ



見学会で橋本功氏（前川事務所所長）の話に熱心に聞き入る一般市民の参加者

り8月16日までの2ヶ月間開催されています。前川國男が新潟生まれであることは新潟の建築関係者の間でも知る人はそうは多くはないでしょう。

1年ほど前に、新潟市美術館の学芸員の方からの新潟開催にあたり新潟独自の企画が出来ないかとの問いかけがあり、私を含めた数名でその模索が始まりました。前川國男は内務省の土木技師だった父の関係から新潟に生まれ5歳で新潟を離れています。書き残した文章や新潟での関係者の話しから驚くほど、新潟での記憶が鮮明であり、新潟への愛着の深さをうかがわせます。

県内での作品は新潟県長岡市の2作品と新潟市美術館そのものが作品であり、計3作品です。前川國男の母方の青森県弘前市に前川作品が多く存在し、現在は市民団体「前川國男の建物を大切にする会」が前川作品を大切に保存・活用し市民に積極的に広めて行こうとしている

ことを考えると、生誕の地新潟でもう少し前川作品が存在すればと思うのですが。

1年程前から始まった企画検討会は「前川國男新潟学実行委員会」に発展し、新潟との縁の深い前川國男の仕事をとどり、人間像に迫り、建築と社会との関わりについて理解を深める目的で一般市民を

対象とした全4回の「前川國男新潟学講座」として実行されています。すでに2回が盛況の内に終了しています。

今回の新潟での企画をたてていくなかで、前川國男の様々な面に接することが出来ました。現在に至るまで私達JIAがエネルギーを注いで来た未完の建築家職能論。この原点を考えると前川國男にたどり着きます。前川國男の戦いの足跡をたどることにより、建築家職能論も活路を見いだすことができるのではないだろうかと思いを新たにす次第です。

新潟市美術館は25年程前に指名コンペで前川事務所が勝ち取った作品であり、当時の代表的な打込みタイルの外壁でつくられています。もしこの地で現在同様にコンペが行われるとしたらどうでしょう。ポストモダンから次の時代への流れのなかで、当時の前川作品が栄冠を勝ち取るには無理があるように思われます。時代の流れは人々が、社会が求める建築を常に変化させてきています。ガラスに囲われた透明感のある軽い建築が当選案となるのでしょうか。新潟市美術館は25年の歳月を経て打込みタイルの外壁の建築は成長した街路樹の並木と共に、周囲の風景にとけ込み美しい姿を見せています。完成時が最高の出来である最近の建築とは異なり、時間の経過と共に輝きを増す「エイジング美の建築」ではないのでしょうか。常に新しい時代の新しいコンセプトの中で建築をつくり出そうと考えていた自分自身のなかで前川作品は「不易と流行」という言葉を投げかけているように思います。

上山寛アトリエ

前川國男新潟学講座

回	日時	内容	会場：新潟市美術館講堂
1	6月1日(土) 14:00～ 15:30	「前川國男と新潟市美術館物語」 橋本 功 氏（前川建築設計事務所代表取締役） 谷 哲夫 氏（新潟市美術館学芸主任） 関 尚久 氏（新潟市教育委員会学校教育部参与）	
2	6月24日(土) 12:00～ 16:50	「新潟の前川作品を見学するバスツアー」 (全3カ所)	
3	7月15日(土) 15:00～ 16:30	「弘前『前川國男の建物を大切にする会』の活動から学ぶ」 葛西 ひろみ 氏（前川國男の建物を大切にする会代表） 武蔵 靖之 氏（新潟まち遺産の会・JIA新潟地域会前代表）	
4	7月22日(土) 14:00～ 15:30	「日本近代建築と前川國男」 松隈 洋 氏（京都工芸繊維大学助教授）	

城下町新潟県村上市の文化・地域活性化運動と町並み保存再生運動

第9回創作研究会見学会・講演会の報告



新潟地域会
創作研究会委員

植田 清史



まえがき

2004年9月26日新潟県の北部に位置する村上市の見学会・講演会を開催した。村上市で5年前から行われている地域活性化運動の一つ「町屋の屏風まつり」が一ヶ月間開催され、地域会の見学会と地元関係者に

講演を依頼した。平成10年、村上市で地域活性化運動が民意により立ち上がり、春の「町屋の人形さま巡り」と秋の「町屋の屏風まつり」が出来た。

二つの催しが町の地域活性化と地区景観に係わる「町屋再生・保存」に続いていることを報告したい。

町のおいたちと生業

人口約3万人、平成の大合併に加わらず単独で行政を続けている。市街地に三面川が流れ、南に旧城跡（臥牛山、舞鶴城跡）を眺望でき、里山が連なる。北は日本海に面し、岩船港、夕日の美しい瀬波温泉街がある。江戸時代には北前船の寄港地であった。戦国時代にはじまり、江戸時代の初代藩主村上頼勝により治められた。内藤家が最後の藩主で明治維新を迎える。歴代の藩主により城郭の普請やまちづくりが着手された。現在の町屋造りは当時の町割りによる。また職業政策により大工、鍛冶師の居住区を指定し住ませ、また専売制として鮭と塩の販売権を与え、肴町、塩町に住ませた。現在これらの町名が存在する。三面川の鮭資源を保護し、現在も市の代表的な名産品となり、全国に販売されている。このように江戸時代に都市としての町なみの骨格や生業が形成されて現在も続いている。

戦後を経て、村上市も経済的支配の波を迎えることになる。まず中心部から国道7号線が移動、中心商店街に大型物販店の進出や他の店舗の幹線沿い移動などが始まり、商店街の衰退が始まった。さらに旧町屋通りにも都市計画道路の拡幅が始まり、自動車優先の町形態が整い始めた。商店主たちも商業再生化の方向を探ったが住民の合意が得られず終了する。一方旧武家屋敷の保存運動が起こり、旧若林家が国指定重要文化財、その他四棟が市指定文化財となった。

町屋づくりを生かした地域活性化運動とその波及効果について 「町屋の人形さま巡り」の開催

(第1回2000年3月7日 - 4月3日)



「町屋の人形さま巡り」
(ギャラリーやまきち、人形さま)



町家造り、ギャラリーやまきち
(国登録有形文化財、2005-9)



町家造り、「つ川」店
(塩鮭加工、販売店)
(国登録有形文化財、2000-5)



町家造り、早撰堂菓子店
(国登録有形文化財、2005-9)
(町家外觀再生プロジェクトの第1号)

この運動を立ち上げた一人の青年「吉川真嗣」氏(当時34歳)の行動による。彼のこの運動の動機と行動について述べる。見学会の後、講師として出席された上村吉一郎氏の説明と吉川氏の話からまとめてみた。

村上市生まれの吉川氏は伝統的な塩引き鮭の加工と販売店の跡取りで、現在専務職である。「当時の状況を承知し、これから何をすべきか考え悩んだ末の結果です」。その運動の内容を一人で説明し、110軒に及び、参加者60軒でスタートした。「保守的な城下町のこと、一同に集まって相談しても、このように早くまとめが出来なかったであろう」と語った。

1998年「村上町屋商人会」設立、町屋マップの制作など、すべて氏の手作りであった。資金なしの活動で、頭を使い、手を使いの、行動であったと。人形さまは各家にある様々な人形を利用し飾り付けをして見せることにした。2000年3月、第1回「町屋と人形さま巡り」の催しが開かれ、当日は雪のちらつく冷たい日にもかかわらず堰をきったようにお客の流れがあった。

「60軒もの参加店があれば、これだけお客を誘導することが出来る!」と「この先は実際の実行が必要」と思っ

た。この反響はすぐ現れ始め、NHKの「新日曜美術館」にとりあげられ全国放映され、その効果が実を結んだ。

第9回地域活性化大賞受賞、さらに地域活性化大賞のベストオブベスト賞を受賞した。

「町家の屏風まつり」の開催(第1回2001年9月10日 - 30日)



町家造り、内部吹抜
(お休み処、(村上市)コミュニティ・デイホーム)



「町家の屏風まつり」



「町家の屏風まつり」

秋の構想が出来た。屏風やお宝道具は、その家々に伝わる物であり、特に屏風はこの町の祭りにしつらえる品々で村上大祭の行事に古くから利用した物である。

2001年9月の第1回「町家の屏風まつり」は、人形さま巡りを上回り県内での評判を高めた。町屋の風景を表現した木版刷りのパンフレットには参加者60軒の案内図に番号がふられ、現在2005年で第5回を終了した。「こんにちは！みせてください！」の挨拶、「どうぞ！」の声で店にあがり、町屋の中の和室に飾られた絵屏風や書屏風また大皿などを見学する。この家のおじいさんやおばあさんが屏風の由来や読み方の説明をする、大変誇らしい顔立ちで目が輝いている。お茶をご馳走になり、いつきのコミュニケーションが生まれる。

町屋造りの間口の狭い奥行き深い住宅兼店の建築空間は多彩な空間が表現されている。「ミセ」の奥は、「ドマ」が奥の土蔵まで続き、それに面して「チャノマ」や「ガイドコロ」がある。「チャノマ」は大きな吹き抜けで高窓で採光される。この吹き抜けには、小屋組の黒い飛び梁が何段にも組まれ、これが部屋の演出を高めている。

町屋再生運動の設立と町屋の小路の再活用

「町屋の外観再生プロジェクト」

吉川氏は更なる運動を興した。前述二つの催しで全国から10万人を超える人が訪れた。町屋造りの建物の内部は素晴らしい空間があったが、外部の仕上げ材は新材で仕上げられている建物もまだ多く残されていた。昔

の町屋造りの出格子や外壁板張りなどの改修を進めるために、全国から基金を募り、参加商店の改修希望者に一定額の補助をすることにした。10年間で事業予算1億円、120軒を目標とした。個人会員一口3000円で参加出来る。全国からの賛同参加者が会員になった。

「城下町の道路から小路の空間の再発見へ」

城下町に多くの小路空間がある。この小路空間を市民にさらに意識づける催しを立ち上げた。

「黒塀プロジェクト」と「宵の竹灯籠まつり」である。



「黒塀プロジェクト」
村上市小町・安善小路



「宵の竹灯籠まつり」演奏付き
10月8日(土) - 9日(日)
午後6時 - 9時
村上市小町・安善小路と周辺地区

昔は小路を挟んで黒塀に囲まれた商家があり、歴史的景観をつくっていた。現在はブロック塀になり、景観的に味のない物になっている。このブロック塀を昔の城下町の景観であった黒塀に戻す修景であった。ブロック塀の外側に板を張り黒塗りにした。低コスト工法が選ばれた。広く市民の参加で作ることとした。「黒塀一枚1000円運動」で市民に呼びかけ、作る時はお年寄りから子供まで参加した。2002年に第1期工事が市民80名の参加で作業を開始した。2003年7月には150メートルの黒塀が完成し、周囲の環境が見違えるほど良くなった。

さらに竹の灯籠まつりの提案により3000本の竹灯籠が灯され「宵の竹灯籠まつり」と名付けられ、周囲の家で雅楽、和太鼓、津軽三味線、尺八、ピアノなどが演奏された。二日で4000人が小路を通ってくれた。

以上が村上市の中で民意によって行われている地域活性化運動の概略である。

まとめとして

一人の男、吉川氏の構想がまわりの人たちを動かし、商店街が参加した。年2回のまつり(町屋の人形さま巡りと屏風まつり)は県内外には定着してきた。県外の来場者も多くある。

会員の皆様も一度村上市にきて、二つのまつりを見てください。村上町屋造りが見られます。近い将来町屋造りの商店街景観が見れるでしょう。(2005-10-1投稿)

(株)都市・建築設計事務所

新加入企業紹介 Bグループ

新しい価値基準の
創造をめざして



甲木 豊秀

今日、あらゆる経済活動に押し寄せるグローバル化、情報化の波の中で、日本はかつて経験したことのない出来事に遭遇しています。一つは、システムの崩壊であり、また一方は価値観の多様化です。弊社は、1973年の設立以来、防水材・屋上緑化のメーカーとして建設業界に会社の存在意義を見出してまいりましたが、この建設業界そのものも大きな構造変化、意識改革を求められてきています。このような環境の中で、私たちが目指してゆくものは、社是として掲げる「**独創の技術が明日を拓く**」、この基本理念のもとに、他社にない新しい価値の創造を更に押し進めることにあります。弊社の屋上緑化・防水材は、環境に優しい商品として、多方面に渡ってその真価を發揮させて戴いております。

私たちは、この分野におけるパイオニアを目指し、私たちが「開発」と呼ぶ「新しい価値基準の創造」をもって、更に快適な空間の実現を支える企業としてのポジションをより明確にしていきたいと思います。

今後も、地球にやさしい、人にやさしい、社会にやさしい、環境を意識した独創的な商品を研究・開発していくとともに、JIAのメンバーとして、長年の経験とチャレンジ精神を生かして、建設業界全体のニーズに応えるべく活動をして参ります。



(第05 126 006号)

ビッグサン複合防水材は、塗膜防水材としてはじめてエコマークの認定を受けた環境にやさしい材料です。

事業方針

地球にやさしい、人にやさしい、社会にやさしい、
独創的な商品を、

守る (Protect)、防ぐ (Prevent) 用途に拡販する。

大日化成株式会社

新加入企業紹介 Cグループ

設計者に応える
製品づくり

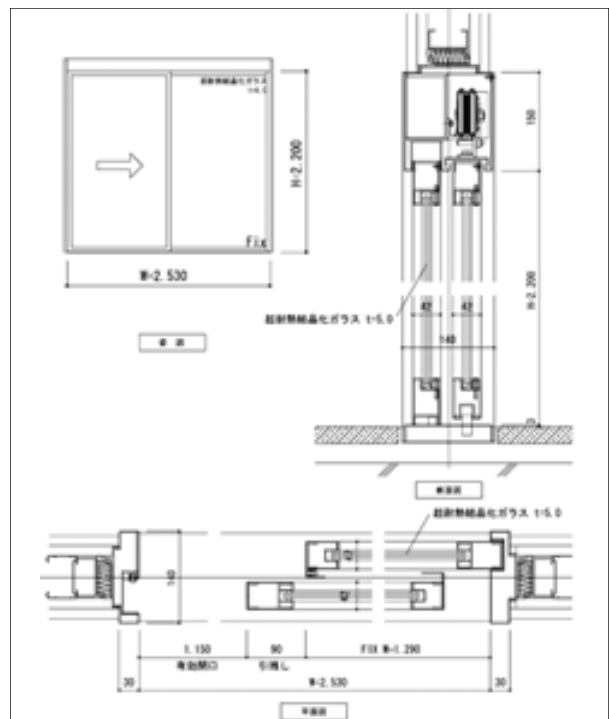


新田 格三

ガラス入り特定防火設備、1時間耐火間仕切壁の大臣認定取得メーカーである当社は、設計者の要求に応える製品づくりと瑕疵工事を行わない信念を基に、知識・経験を活かし、開発・設計・製作・施工・管理の一貫した体制で、ビル用防耐火ガラスシステム商品を提供しております。

パイロシステムのガラス入り特定防火設備の特徴

- ・新建築基準法の防火試験に合格。防火性能を立証しており、行政の確認が不要。
- ・デザイン性重視のスリムな断面形状。(枠見込 100ミリ・見付 25ミリ)
- ・方立(連結部)は 65ミリの細い見付。FIX窓、片開きドア、両開きドアの各連結可能。
- ・大型透明ガラスで防火性能に加えて人体衝突時も安全な耐熱強化ガラス採用。
- ・表面仕上げは鋼製塗装仕上げ・ステンレス・アルミニウム・または塩ビシート貼り。
- ・FIX窓は、縦・横両使い可能。(最大ガラス見付 2100ミリ×2850ミリ)
- ・ドアは、片開き W1230ミリ× H2725ミリ、両開き W2100ミリ× H2725ミリと大きく、四周共 80ミリの細框。ラッチ不要で押し棒が自由に選べ、窓としても採用可。両開きドアの中央召し合せに目板がなく、順位調整器も不要。



最新認定取得品「手動片引戸フラットレールタイプ」
(W2530ミリ×H2200ミリ、有効開口W1150ミリ)

ご要望があれば新たに開発し、認定取得致します。

パイロシステム株式会社

新加入企業紹介 Gグループ Think & Ideaの 実践



伊藤 敏郎

ベーシックインフォメーションセンター株式会社は、1983年に建築分野のマーケティング活動を目的に設立されました。弊社は、マーケティングリサーチからスタートし、現在では商品開発、営業開発、販売促進活動、新規事業企画などリサーチに限らずトータルでマーケティング提案が行なえる企業に変革と成長を遂げています。現在の私どもの事業目的は大きく5つの領域に分かれ、新商品のニーズ発見調査や既存商品の評価調査、ブランド調査などを行う「調査事業」、データベース事業とは、建築物情報やオフィス移転情報など建築資材販売促進のデータベース開発を行う「データベース事業」、建築関連製品・サービスの採用可能性を確認し、新しい市場の開拓を目指す「市場開発事業」、建築に関するマーケティングセミナー企画、展示イベント企画などを展開する「販促事業」、企業の商品企画や開発、販売戦略の構築の提案を行う「コンサルティング事業」を中心に行っています。また昨年よりマンション生活者向けの情報サイト「わくわくリフォームランド」をオープン。マンションリフォームに適した建材紹介をはじめとする快適生活情報を発信しています。

今後も、企業スローガンである「Think & Idea」をさらに深く実践し、すべてのお客様に「夢」「希望」「歓喜」を与えることができるマーケティング企業として展開していくとともに、JIAの一員として、建築業界全体の向上、また建築文化の創造・発展に貢献すべく活動して参ります。 ベーシックインフォメーションセンター株式会社



アーキテクト・ガーデン 2006 建築祭



アーキテクト・ガーデン
2006実行委員会委員長

上浪 寛

テーマ：「元気な建築・安全で豊かな社会」

会期：10月27日（金）～10月31日（火）

コア会場：INAX銀座ショールーム7階、8階

今年も建築家の仕事や考え方を市民に広げるイベントとしてアーキテクト・ガーデン建築祭を開催します。昨年の耐震偽装事件は建築家が社会的な信用を失った大事件でした。しかしこの事件をきっかけに建築家の存在意義が、一般の人々にある程度認識されるようになったのも事実です。建築士法の改正や設計入札制度の見直しも方々で取りざたされています。世間一般の人々が建築家に対し、安全で豊かな社会造りを求めています。良くも悪くも世間の注目を集めているこの時期にアーキテクト・ガーデンでアピールすることは、建築家の仕事や考え方を社会に広め、人々の理解を深める良い機会です。各地域会の活動とも相乗し、支部全体で意義のある、また楽しい行事となることを願っています。皆さんの積極的なご参加、企画提案、ご意見を募集します。 (株)構想建築設計研究所

広報からのお願い

会員のみなさまの情報をできるだけ伝えていきたいと思っています。

地域のまちづくりや建築の情報、海外レポートなどの投稿をお待ちしています。

第1回 住まいのバリアフリーコンペティション2006

バリアフリーという言葉は広く浸透してきましたが、東京都における住宅のバリアフリー化率は4%とまだまだ低い状況にあります。今回、住宅のバリアフリーの施工事例を広く募集し、優良なものを表彰・公表することで、民間住宅における住宅のバリアフリー化の普及促進を図ることを目的としています。会員の皆様からの応募をよろしくお願ひします。

応募期間：6月1日(木) 8月31日(木) / 審査結果：10月下旬に公表

詳細は、「住まいのバリアフリーコンペティション」の応募要項は下記のHPをご覧ください。

提出先・問合せ先：東京都住宅バリアフリー推進協議会事務局

NPO法人東京住宅バリアフリー推進センター内 〒113-0033東京都文京区本郷3-25-4 津久井21ビル4階

TEL: 03-3811-6413 / FAX: 03-3811-1580 E-mail: tokyobaria@cup.ocn.ne.jp http://www.barikeyou.org

建築家と考える住まいづくり第4回「新築・リフォーム、どちらですか」CPD認定プログラム：2単位

このセミナーは、市民の方々に正しい知識を伝えるとともに、建築家の役割を伝え、建築家職能の社会的認知を広めるために行っている対市民活動です。

講師：高平茂氏(建築家・高平計画工房) / 中澤光啓氏(建築家・中澤建築工房) / 郡山毅氏(建築家・郡山建築設計事務所)

日時：7月22日(土)10:30-12:30(レクチャー：10:30-12:00 / 個別相談：12:00-12:30)

会場：リビングデザインセンターOZONE 8階セミナールームB(東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー内)

参加費：無料(個別相談：1000円)

定員：30名

申込方法：葉書、FAX、E-mail(HPからも送信可)のいずれかで、セミナー名、受講日、郵便番号、住所、氏名(フリガナ)、年齢、職業、電話番号、FAX番号、会員No(リビングデザインクラブ会員の方)を記入のうえ、下記まで

申込先：リビングセンターOZONE(〒163-1062 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー内 私書箱8125)

FAX: 03-3408-8294 E-mail: ozone-seminar@mail-ozone.jp/ ホームページ: http://www.ozone.co.jp/

問合せ先：日本建築家協会関東甲信越支部住宅部会「くらしと住まいの相談室」担当者宛

〒150-000東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館 TEL: 03-3408-8291 / E-mail: jutaku@jia-kanto.org/

主催：日本建築家協会関東甲信越支部住宅部会 / 共催：リビングデザインセンターOZONE

JIA建築セミナー「建築家スタジオ2006」

「建築セミナー」は、昨年からのスタジオワークを中心に据え、ひろく環境デザインに関心を抱く人たちに環境を根本から思考し、デザインする手ほどきをします。このプログラムは、JIAが最高の人材を集め激動の時代を乗り切る勇気をもった、心の若い環境デザイナーに、刺激的な鍛練の場を提供します。スタジオとしては、II、III、IVで実施しますが、各スタジオ単独でも参加できますので、奮ってご参加ください。今後の概要は以下の通りです。詳細は、http://www.jia.or.jp/kanto/seminar/futur/frm.htm/をご参照ください。

スタジオII「建築プログラミング」 7月22日(土)-8月6日(日) 「誰かのためのイス | プロジェクト」

スタジオマスター：小野田泰明氏(建築計画家・東北大学大学院工学研究科助教授) /

本江正茂氏(東北大学大学院工学研究科助教授)

スタジオIII「都市計画デザイン」 9月12日(火)-10月14日(土)「アーバンスケープアーキテクチャー | 生きられる都市へ」

スタジオマスター：韓亜由美氏(アーバンスケープ・アーキテクト)

スタジオIV「建築デザイン」 11月7日(火)-12月16日(土)『PLAZA PALACE』

スタジオマスター：萩原剛氏(竹中工務店設計部 建築家)

定員：各30名 / 受講資格：当セミナーに興味のある方、および若手設計者

講習期間：1年間(6月開講)。原則として毎週1回、火曜日開催(18:30-20:30)。スタジオ講評会は、原則土曜日開催(18:00-)

受講料：各スタジオ40,000円(税込み) / 見学会では実費をいただきます。

開場：JIA館(東京都渋谷区神宮前2-3-18)

申込先：日本建築家協会関東甲信越支部JIA建築セミナー事務局(担当：佐藤由巴子)

TEL: 03-3408-8291 / FAX: 03-3408-8294 / E-mail: ysato@jia.or.jp/

主催：日本建築家協会関東甲信越支部JIA建築セミナー実行委員会 / 協賛：ロンシール工業株式会社

JIA環境建築連続セミナー2006

第5回 7月22日「ヒートアイランド対策とその効果の予測・評価」 講師：梅千野晃氏 / パネラー：普養寺幸子氏

第6回 9月30日「東京：エコ・シティ水の都市の再生に向けて」 講師：陣内秀信氏 / パネラー：大西文秀氏・柴田いずみ氏

第7回 10月21日「パウビオロジー(建築生物学)による健康な住まいづくり」 講師：石川恒夫氏 / パネラー：宿谷昌則氏

時間：13:00-16:00 参加費：3000円

会場：JIA館1階小ホールまたは建築家会館1階大ホール(東京都渋谷区神宮前2-3-18)

申込方法：氏名、所属先名、会員番号、電話、FAX、E-mail、参加日を、FAXまたはE-mailにてJIA事務局までお送りください。

Fax: 03-3408-7129 E-mail: skitazawa@jia.or.jp/

主催：日本建築家協会 / 企画運営：日本建築家協会環境行動委員会

こんな本を読みました

『木洩れ日の庭で』



- ・著者：中谷 耿一郎
- ・判型：19cm x 19cm
- ・1995円（税込）
- ・2005年7月1日発行
- ・出版社：TOTO出版

この本は『新建築住宅特集』に1年間連載された「人生を楽しむ庭づくり」が元になっている。八ヶ岳のアトリエでランドスケープ・デザインの作家活動を行っていると聞くだけでも羨望の念を抱くが、本書を読んでもますますその想いを強くした。そこには、デザイナーである前に全うな生活人でありたいと願う著者の強い意思を感じる。「最小限の要素で、最大限の豊かさ」と語る著者はときとして文明の批評家の趣がある。不健康に日常と格闘する建築家にとって必読の書である。珠玉のエッセーを彩る写真に心が洗われるはずだ。
 （森岡茂夫/アルフィ建築デザイン）

編集後記

横浜の仲通りで行われた「縁台ワークショップ」で出来上がった縁台を譲り受けた。縁台美術の荒野さん曰く「縁台は他人と腰掛けを共有しなげりやなりません。くっちゃべったり...」なるほど、我が家の縁台は、家族との間合いをうまく取り持ってくれている。（櫻田修三）

広報委員をやらせて頂いていますと、JIAの動きや建築界を取り巻くさまざまな問題が見えてきて、大変勉強になります。この情報を会員の皆様に伝えることが仕事だと考えます。（大岩義充）

広報委員となり、JIA組織について概要が見えてきた。本部・支部・地域会の活動はパワフルだが、JIA全体の中でのダブつきも多い。仙田新会長が提言する有機的連携は、健全な組織の継続のためにも必須と思う。（神田雅子）

賛助会員として支部広報委員会に参加させて頂いていた。委員会や部会、各イベントに参加することにより、正会員や賛助会員同士の繋がりが一層深くなる。これからも積極的に参加をするつもりだ。（久保宏二）

役員会議事録/臨時総会議事録は
 ホームページに掲載の予定です
<http://www.jia-kanto.org/members/>

陰惨な事件が続く。正常と異常の境がない。「リフォームでもこんな風になるんですね。職人さんもいい人達だったし。」草の香る畳を拭きながら、建替を望んでいた奥様が嬉しそうに言う。顔が見える仕事をしていきたい。（倉島和弥）

慣れない分野で四苦八苦し不眠不休に近い状態に陥りました。建築設計と言えど様々で、設計とは何かと自身に問える仕事をしていきたいものですね。そんな状況で名ばかりの編集委員になってしまったことをお詫び致します。（鈴木利美）

どの子もはじめての体験を素直に感動し、驚きを伝えてくる。身体寸法より大きな空間をはじめて協働で作出す、木材を使った造形ワークショップ、小学校から開催要請が続く。遊びながら学習したこんな遊びの環境がなくなっている。（寺本晰子）

昨年かから兼務の形で設計監理の立場を離れ、建築の仕事をする機会を得た。立場が変わるとクライアントと一緒にになり、仕事の出来る建築家の仕事の素晴らしさが再認識される。今後一層本来の設計監理業務に励みたいと感じている。（山本信治）

編集：社団法人 日本建築家協会
 関東甲信越支部広報委員会
 委員長：中村 高淑
 副委員長：近藤 剛啓・櫻田 修三
 委員：大岩 義充・神田 雅子・久保 宏二・倉島 和弥・鈴木 利美
 寺本 晰子・林 秀司・古池 廣行・本田 宣之・山本 信治
 編集長：櫻田 修三
 編集委員：大岩 義充・神田 雅子・久保 宏二・倉島 和弥・鈴木 利美
 寺本 晰子・古池 廣行・山本 信治・菊地 良一
 発行人：菊地 良一
 発行所：社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館
 TEL 03-3408-8291(代) FAX 03-3408-8294
 デザイン：山口尊敏/印刷：サンデー印刷社
 ©社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2006

JIA関東甲信越支部関連サイト一覧
 (社)日本建築家協会(JIA) <http://www.jia.or.jp/>
 建築家online(一般向け) <http://www.jia-kanto.org/>
 JIA 関東甲信越支部(会員向け)
<http://www.jia-kanto.org/members/>
 交流委員会 <http://www.jiakanto-koryu.org/>
 保存問題委員会 <http://www.archiweb.com/jia-hozon/>
 JIA 建築セミナー <http://www.jia.or.jp/kanto/seminar/>
 住宅部会 <http://www.jia-kanto.org/jutaku/>
 情報開発部会 <http://www2.bpo.co.jp/jia/>
 都市デザイン部会 <http://www.jia.or.jp/kanto/ud>
 メンテナンス部会 <http://www.jia-kanto.org/mente/>
 中野地域会 <http://www.eva.hi-ho.ne.jp/jia-nakano/>
 群馬地域会 <http://www.jia-kanto.org/gunma/>
 長野地域会 <http://www4.ocn.ne.jp/jia-naga/>
 神奈川地域会 <http://www.jia-kanto.org/kanagawa/>
 千葉地域会 <http://www.chiba-kentikuka.jp/>
 茨城地域会 <http://www.mfweb.net/jia-ibaraki/>

広告

INAX